

写真1　常燈明台

## 常燈明台

近隣史跡の紹介

常燈明台（じょうとうみょうだい）（写真1）は、靖国神社に祭られた霊を鎮めるために1871年（明治4年）に建てられた、高さ約16.8mの灯篭です。

当時、九段坂は筑波や房州の山々までを見渡すことができるほど見晴らしが良く、常燈明台は東京湾を行きかう船の目印（灯台の灯り）としての役割も果たしていました。

当初、靖国神社の正面に建てられていた常燈明台は、1930年（昭和5年）に道路の改修工事に伴いに九段坂公園に移転しました。九段坂公園は約1,548㎡ほどの小さな公園で、常燈明台のほかに、幕末の志士である品川弥二郎（長州藩）と大山巌（薩摩藩）の銅像が置かれています。

周辺には桜の名所として知られる北の丸公園、千鳥ヶ淵公園、靖国神社などがありますが、この時期の九段坂公園では、満開の桜が常燈明台の灯りでライトアップされた光景（写真2）を見ることができます。


**参考文献**

（一社）千代田区観光協会
URL　http://www.kanko-chiyoda.jp/tabid/2057/Default.aspx
　　http://www.kanko-chiyoda.jp/tabid/1039/Default.aspx
　　http://www.kanko-chiyoda.jp/tabid/1040/Default.aspx
（一財）国民公園協会 皇居外苑
URL　http://www.fng.or.jp/koukyo/minijyohokitanomaru/koukyou-kudanzakakouen.html
公園マップ
URL　http://park.publicmap.jp/spot/11505




写真2　常燈明台と桜

